



13
1961
41





遠
 1961
 16

1961
41

霞之傳 春 節 目 名



それ先年位二を傳ハ甲寅辰かどろそ
さるさかり小林の初めのおとこどろ
なつてまうらまど今ふその名どをさの
のぶもわうれつあを成りたわとせ
りしつむさん乃ひらとたるの目つゞ
昔ふに今一度わとていりあ人と
一人つ目年入所れきさるはぼんのい
こをのめらんこのあひを人初め
とよきうりにひいさそのよきか
とをちりある

世の中は秘かにわらわ
うまの火いねえつが
たるはゆらに
あさいならんゆと
こそふーにる



羽人皆曰これ人か
 りんどうなるもあ
 らんぞとてあつて
 らんぞとてあつて
 大人玉のまゝか
 まうゆてまゝま

ろれあめあま
 の人つぐう八人き
 まるはくまが
 下つて
 釣ひかきい
 きりあひの船と
 くらんりうの女
 らんぞとてあつて
 大人玉のまゝか
 まうゆてまゝま



ろれあめあま
 の人つぐう八人き
 まるはくまが
 下つて
 釣ひかきい
 きりあひの船と
 くらんりうの女
 らんぞとてあつて
 大人玉のまゝか
 まうゆてまゝま

ひろくくはりてあ
 の人あま二人つれ
 ほろくくはりてあ
 久るそのあま
 ろれあめあま
 治せらるる徳
 ありうこの徳
 穿胸国といふ



大人玉
 まうゆてまゝま
 ろれあめあま
 の人つぐう八人き
 まるはくまが
 下つて
 釣ひかきい
 きりあひの船と
 くらんりうの女
 らんぞとてあつて



千子のくまの
作者山東京傳
板元通油町
此のや

船子小人曲のさぼと大人玉の
 大守兜をそんを成らぬのせむき
 婿をんきりてつひのせむき
 あまのあまのあまのあまの
 ま代はしん人徳も
 さう羽のあまのあまの
 のあまのあまのあまの
 小つひ大人玉のあまの
 もまのあまのあまの
 おれあまのあまの
 あまのあまのあまの
 まのあまのあまの
 合衆あまのあまの
 久しあまのあまの
 けとあまのあまの
 の徳とあまのあまの
 女は二人とあまのあまの
 何とあまのあまの
 まのあまのあまの



京傳作

あまのあまのあまの
 まのあまのあまの
 おれあまのあまの
 あまのあまのあまの
 まのあまのあまの



